



3 月 号

八 郷 町 役 場

人口と戸数(3月末)
世帯数 5,737
人口 男 16,238
女 16,926
計 33,164

今年の町の予算 一億六百九十七万円 教育費は総支出の四三%

町の一般会計予算は、高校建築費・統合小学校建設関係費などを含んだ教育費重点予算として原案通り可決され、その内容は別表の通りだが、おもなる項目について説明しよう。

歳入の状況

町税収入は現行税法の規定による収入見込みをあげたもので、前年度より一六〇万円増となつてゐるが、これは財源の増加などによる自然増である。

国庫支出金のうち、その大部分である七五〇万円は、統合小学校の補助金見込額で、確定したものではない。その他は、前年の実績から予想されるものを計上したものである。

県支出金も国庫支出金同様前年の実績から、予測出来るものを計上した。

歳出の内容

園部 真家展雄氏撮影

学校建築資金にあてるもので、補助金の決定を待つて執行する予定のものである。

議会費は議員の報酬手当が前年度より増額したもので、前年度より五十一万円の増額となつた。

役場費は、昨年度より退職による人件費の減少と需用費等の削減によつて、二百一十万円を減額した。

消防費は、消防団整備計画による動力ポンプなど、施設強化のため、七十一万円の増額となつた。

土木費は、碎石の県支給、その他で八十二万円を減額した。

教育費は、一七五二万円増。小学校費は昨年に比し、一四三八万円増、その内容は統合小学校建設関係費に一、六三二万円、需用費は昨年度に比し、一七五万円

重視したが、財政能力の範囲で予算を計上したので、総合的な補助金政策をとらなかつた。

総額では昨年に比し、一二〇万円の増額となつてゐる。特別助成事業費の一三三万円は、町が事業主体となつて建設する研修施設、及びこれに附設する生活改善施設の自己負担分を含んでゐる。

労働費の三五〇万円には、自給飼料生産地造成の種子購入費二〇万円を計上してゐる。

公債費は昨年に比し、一七〇万円の増額を計上してゐるが、これは今年から元金償還期に入る起債が多くなつたためである。

諸支出金は昨年に比し、一九五万円を減額した。その内容は、徴税組合の活動の強化と納税組合の活動の期待して増額、国保への繰出金は保険料収上の向上を期待して減額、各種負担金もその効果を検討して整理計上した。

園部 農事放送など
二〇補助事業完成
国の新農村建設特別助成事業として、昨年(一年度)全町に二十三の補助事業の実施をきめたが、中途で三項目

をきめ、二〇事業が三月末日に全部完成した。

二〇事業の総事業費九〇〇万円、補助金四二二万円

三月定例町議会は、三月十日召集、九日間の会期でつぎの十三議案を審議、原案通り議決した。

昭和三十年度の一般会計及び特別会計の決算認定について

①昭和三十年度の一般会計及び特別会計の決算認定について

②助役定数条例の廃止

③国民健康保険条例の一部改正。保険給付の条件を改善した。

④町監査委員の選任につき同意を求めること。学識経験者を有する者の中から上青柳の櫻井庄司氏が再任された。

⑤町固定資産評価審査委員会委員の選任につき同意を求めること。部原の杉山森一氏が再任された。

⑥三年度八郷町歳入歳出予算。別項の通り原案通り可決した。

⑦国保特別会計予算。別項の通り原案通り可決。

⑧直営診療所特別会計予算。⑨一般会計に於ける一時借入特別会計に於ける一時借入

⑩三年度追加更正予算。⑪課室設置条例の一部改正。調査室を調査課に改めた。

⑫三年度八郷町母子家庭小口資金融資特別会計予算。

土地調査の研修会実施さる
町では新農村建設特別助成事業で、青年が農林業生産の基礎である土地について共同の調査研究を行い、技術の改善、生産の向上、経営の合理化等、土地利用高度化推進の基礎条件を明らかにするため必要となる技術の研修を図ることを目的とする。平板測量器具、土壌検査器具等を内容とした土壌調査研修施設を整備したので、去る三月二八、九の両日、板敷山の青少年研修所で、町内農事研究会、新農

土地調査研修会の研修会員
二月号一面三段、経費の支出方法の数字中、昭和三十年度支出額九、八〇七は、九、八〇九の誤りです。訂正します。

衛生モデル地区
小倉、川又両地区を指定
町では、環境衛生モデル地区として昨年度は小屋部を指定し、よい結果を得たので今年度は小倉、川又の両地区を指定して、衛生思想の普及に努力する方針をきめた。

荒井清次君
無言の歸還
当町吉生の荒井清次君は、終戦後行方不明となつてゐたが、この程ソ満国境にて戦死が確認され四月一日自宅葬が行はれる。

教職員一人一研究の結果
町の教育委員会では、昨年度管下小・中学校教職員二七名に一人一研究を命じ、その作品を募集展覧の結果、左の通り入選作品が決定した。

警察官の異動
柿岡警察派出所長袴塚光榮氏は勇退され、後任所長には県本部より富岡次男氏が着任される。

小学校六年の読書指導
入門期の作文指導をこう実践した
園部 田崎しずえ

警察官の異動
柿岡警察派出所長袴塚光榮氏は勇退され、後任所長には県本部より富岡次男氏が着任される。

小学校六年の読書指導
入門期の作文指導をこう実践した
園部 田崎しずえ

警察官の異動
柿岡警察派出所長袴塚光榮氏は勇退され、後任所長には県本部より富岡次男氏が着任される。



昭和32年度一般会計予算

歳入	32年度	31年度	備考
1.町税	59,044,400	57,428,000	
①町民税	11,609,000	11,565,000	
②固定資産税	37,292,500	36,365,000	国有財産分536,500円増
③自転車税	2,550,900	2,457,000	
④電気料金	2,100,000	2,040,000	
⑤煙草消費	5,292,000	4,800,000	
⑥木材引取	200,000	200,000	
⑦その他	1,000	1,000	
2.地方交付金	31,051,000	31,248,556	
3.公企業及財産収入	12,670	3,700	
4.使用料及手数料	703,000	640,000	統合小学校補助金見込 7500,000
5.国庫支出金	8,849,000	1,146,100	
6.県支出金	2,025,700	1,907,600	
7.寄附金	100	200	
8.繰入金	100	100	
9.繰越金	50,000	300,000	
10.雑収	225,100	205,200	
11.町債	5,000,000	0	統合小学校建設関係費見込額
計	106,971,070	92,879,456	

歳出	32年度	31年度	備考
1.議会費	1,894,000	1,380,400	人件費 1422,000
2.役場費	24,345,300	26,359,500	人件費 17224,000
3.消防費	5,540,980	4,824,100	人件費 1032,880 可搬式動力ポンプ8台購入 2400,000
4.土木費	7,621,900	8,451,860	トラック交換購入費 500,000 碎石代金480,000減(県より現物支給分)
①役務費	1,631,900	2,051,860	
②道路橋梁費	5,930,000	6,400,000	
5.教育費	45,977,700	28,458,000	人件費 1150,000 需用費 5171,500 (1755,600増)
①教育委員会費	2,067,300	1,807,400	統合小学校建設関係費見込額 15000,000
②小学校費	25,126,000	10,744,200	需用費 4233,400 (384,300増)
③中学校費	5,791,900	6,222,800	地盤費 500,000 建築施設費 8888,000
④高等学校費	10,103,000	7,000,000	
⑤公民館費	2,251,300	2,194,400	
⑥社会教育費	632,200	489,200	
6.社会及労働施設費	1,824,900	1,917,196	
①民生委員会費	109,000	182,000	
②授産費	792,900	821,000	
③保育所費	923,000	914,196	
7.保健衛生費	1,678,480	1,519,000	
8.産業経済費	7,911,340	6,710,700	人件費 2333,700
①農業委員会費	3,034,200	2,763,200	
②建設計画費	241,000	411,000	
③特別助成事業費	1,130,000		
④助産費	3,506,140	3,536,500	
9.財産費	271,300	2,171,200	財政調整積立金 2000,000減
10.統計調査費	325,800	330,000	
11.還付金	102,500	499,000	
12.公債	3,274,200	2,100,300	
13.諸支出金	5,202,670	7,158,200	
①徴税費	2,241,800	1,910,500	
②繰出金	2,005,000	2,775,000	国民健康保険会計へ繰出
③諸費	955,870	2,472,700	
14.豫備費	1,000,000	1,000,000	
合計	106,971,070	92,879,456	

警察官の異動
柿岡警察派出所長袴塚光榮氏は勇退され、後任所長には県本部より富岡次男氏が着任される。

國保特別会計予算

二千二百二十六万四千円

今年の国保特別会計は、保険税を昨年の一戸平均一、五〇四円から二、〇〇〇円に引上げたことと、国庫補助金の増額を見込んで、五六四万八千円を増額している。

歳入

○保険税 国保で重要なものは、まず療養給付であるが、今年はこの財源を確保する計画で、この財源を確保する計画で、まかなうこととし、一戸平均二、〇〇〇円の一、四四四万五千円を計上した。

（茨城県の保険税平均は一戸平均二、五〇〇円）

歳出

○保険給付費は、次のように増加が見込まれるので、過年度分と合せて、四六八万九千円を増額計上した。

- ① 特殊療養の制限をはずした受診率の向上からの自然増加額、一四八万五千円
- ② 結核の入院期間を二ケ年にしたものの増加額、一八万八千円
- ③ その他入院を一ケ年とした増加額、四〇万円
- ④ 脳神経科入院を一ケ年とした増加額、一九万八千円
- ⑤ 健康検診による増加額、一〇万三千円

○保健施設費 保健婦・保健指導員の設置のために七四万八千円を増額した。

昭和32年度国民健康保険特別会計予算

才 入			
款 項	32年度	31年度	備 考
1. 国民健康保険税	14,445,100	8,872,000	5,573,100増
2. 一部負担金	132,000	31,000	101,000増
3. 財産収入	300	1,000	
4. 使用料及手数料	50,000	5,000	45,000増
5. 国庫支出金	4,594,380	3,909,000	685,380増
① 療養給付費	2,233,000	1,995,210	
② 事務費補助金	2,169,280	1,805,190	
③ 保健婦補助金	192,100	108,600	
6. 県支出金	20,000	20,000	
7. 繰入金	2,000,000	2,770,000	770,000減
8. 繰越金	20,000	5,000	15,000増
9. 雑収入	3,000	3,000	
合 計	21,264,780	15,616,000	5,648,780増

才 出			
款 項	32年度	31年度	備 考
1. 役 場 費	2,201,572	2,145,899	55,673 増 内職員費2,133,672
2. 保 險 給 付 費	16,704,400	12,014,500	4,689,900増
① 療 養 諸 費	15,763,400	10,954,500	4,813,900増
② 助 産 諸 費	355,000	400,000	45,000減
③ 哺 育 諸 費	426,000	480,000	54,000減
④ 葬 祭 諸 費	155,000	180,000	25,000減
3. 保 健 施 設 費	1,241,346	493,322	748,024増
4. 財 産 費	5,000	5,000	
5. 公 債 費	55,000	60,000	
6. 諸 支 出 金	981,000	822,450	158,550増
7. 予 備 費	76,462	74,829	
合 計	21,264,780	15,616,000	5,648,780増

消防団春季点検

八郷町消防団では、昭和三十二年の春季点検を三月二十三日柿岡で実施した。消防団の現況は、団員 1,585名、動力ポンプ 23台、腕用ポンプ 29台

写真【上】分列行進中の柿岡地区団
【下】放水試験中の動力ポンプ集団

新生活全体協議会

八郷町公民館では、三月二日八郷町公民館で、新生活全体協議会を開き、モデル公民館としての一年間の研究と実践の経過を発表し、これをもととした今後の運営について協議した。

- ① 家庭生活の民主化
- ② 時間の励行
- ③ 蚊・蠅の駆除
- ④ 結婚改善
- ⑤ 家族計画
- ⑥ 衣食住生活の改善
- ⑦ 農業経営の改善
- ⑧ 有線放送の施設

保育所修了のよい子たち

町立柿岡保育所の才三回修了式は、去る三月二六日行われ、二八名のよい子を送り出した。

今年も三八名を新入所させて定員六六名を保育する。所長は菊地吉左門氏、保母三名、予算九二万円。

狂犬病の予防

「春先は狂犬病の発生する時期です。飼犬の登録と予防接種は、おつこうがらずに受けおきましょう。」

二野大野のおぢさんを見ておどろく位、いやなことはありません。

簡易農簿記講習会

町では新農村建設の一環として、農家簿記の普及をはかるため、全町より中堅農家四〇戸をえらび、記帳を依頼しているが、去る二月二七日、県農業会議所の神林主事を講師として講習会を開いた。

これまで一般に使用されている農家簿記は、一般の農民には無理なところがあり、普及されないで、精度は多少おちるが、大多数の農家で記帳可能と思われる様式に工夫されたのが、この簡易農家簿記である。

よるこばい現象

戦後の動揺というが、一時、都会地といはず、地方といはず、都々に見られたアブレの青年層の類、たがいは、全く目を覆うもの、云々といはれ、経済面の安定と共に日々の生活にもゆとりと何となく、世相に落着いた風が見られ始めた事は誠に喜ばしい現象と思う。



果してこうした世相からどううかすは、兎も角、青年層の事物に対する態度、研究、究極と云うか、物事に対する観察態度が著しく変化し、以前はよく物事に對する軽率な態度と云ふものが、現に現れたものであつたが、然し現在ではそれがうすき真剣味と云ふものが目立つて来た事である。今當地の例をあげて見れば、次の様な例がある。去月末行はれた大覺寺に於ける研修會がそれである。會そのものの成果收穫を論ずるの短時日の講習であつたので、時期尚早のそしりをまぬかれぬと思ふが、然し実に熱心な研修會であつた事は事實であつた。講義実科等々で時間的に甚だ粗末なものであつたが、一同終始まじめに真剣

「ひとこと」欄について

広報紙に町民の自由な声をのせて、讀者のみなさんに親しんでいただくことは編集者の念願で、今月からこの「ひとこと」欄を設ける事にしました。皆さんに町民各位に「一言物申したいこと」があらうと思ひます。それには、この欄をご利用下さい。

字数は八百字以内、月切毎月十日、採否は編集部におまかせねがひ、採用のものには薄謝を呈します。

教職員人事（校長）

- 小幡中 教頭 野口忠（下青柳）
- 恋瀬中 校長 国谷昌夫（國部）
- 瓦会中 校長 磯山正一（國部）
- 國部中 校長 飯塚隆雄（恋瀬）
- 柿岡小 校長 稲葉正（玉里）
- 小幡小 教頭 羽生包好（青穂）
- 下青柳小 教頭 富田正男（片野）
- 青穂小 教頭 廣瀬豊（小幡）
- 青穂二小 教頭 飯田義雄（昇格）
- 國部小 校長 水谷好伸（石川）
- 林小 教頭 小貫伝（石川）

建築中の八郷高校

二月十七日起工式を行つた八郷高校は、三月二六日上棟式をすませた。しかし、入学式までに完成しないので、八郷分校の入学は当分の間、本校に収容される。

写真は上棟式を終つた八郷高校校舎

